

2023年度 長期・中期研修報告書

所属 経営学部 職名 准教授

氏名 浜松 翔平

< 研 修 概 要 >

本研修では、カナダ・ブリティッシュコロンビア州ビクトリアに所在するビクトリア大学（University of Victoria）に Visiting Scholar として滞在し、「ベンチャー・中小企業の成長戦略」をテーマに、経営資源が限定的なベンチャー・中小企業が成長を遂げるための戦略研究に専念した。研修期間中、(1) これまでの研究の体系化・再調査、(2) 新たな研究テーマの本格的な始動に取り組み考察を重ねた。

これまで、科研費・若手研究のテーマである『ものづくり中小企業のグローバル戦略 ―海外展開後の拠点間マネジメント―』（2018 年度採択、2024 年 3 月まで）に関する研究を進めてきた。本研究は、中小企業がグローバル化を含めた成長を果たすための成功要因を明らかにすることを目的としている。中小企業は経営資源が限定的であり、外部環境から強い影響を受ける。特に日本市場の独自の特徴ゆえに、日本の中小企業は固有の経営資源を活かした戦略構築が求められる。本研修期間を通じて、日本の中小企業固有の戦略について考察を深め、その成果を一冊の書籍としてまとめる準備を進めた。共編著『代替わり中小企業の戦略革新（仮題）』を 2024 年度中に出版する予定である。

また、分担研究者として、科研費・基盤研究 C（研究代表者：新潟大学・岸保行准教授）の『日本酒の海外市場での浸透メカニズム』（2018 年度採択、2023 年 3 月まで）の研究も実施してきた。本研究は、どのような情報がどのような形で海外の消費者に届くと消費が拡大するのか、また消費者の日本酒に対する経験度合いによって求められる情報がどのように異なるのか、情報と消費の観点から日本酒の海外市場での浸透メカニズムを明らかにすることをテーマとしている。新型コロナウイルスの流行により海外調査が困難であったが、本研修期間中にアメリカで作られる現地の清酒の実態調査を追加し、理解を深めることができた。さらに、日本酒の普及を理解するためには、日本食材や日本食レストランの普及状況の把握が欠かせない。今回の研修で滞在したカナダにおいて、日本酒のみならず、日本食や日本食レストランの普及状況の実態調査を行い、新たな視点を得ることができた。加えて、これまで着手できていなかったヨーロッパにおける人的ネットワークを構築し、北米、アジア、ヨーロッパという日本酒・日本食の主要海外市場での調査を実施することが可能となった。これらの成果を基に、これまでの研究を深化させ、書籍として出版する計画である。

さらに、上記の研究推進に加えて、新たにベンチャー企業を主眼に置いた成長戦略の研究を進めることができた。2021 年度から、起業に興味を持つ予備軍におけるアントレプレナーシップ研究や、社会実装を通じた起業家育成の研究に着手していた。これまでの科研費研究は既存の中小企業や産業を対象としていたが、新たに起業す

る、または起業したベンチャー企業の成長戦略を明らかにすることで、新規・既存を問わない企業の成長戦略を体系化することを目指した。2024 年度には、日本ベンチャー学会の INCJ 研究プロジェクト（採択テーマ：「ベンチャーキャピタルにおける成果予測と実現成果の乖離を解説する」）に採択された。政府系ファンドである INCJ の内部データを使用できる契約を結び、通常アクセスが難しいデータソースを用いて研究を遂行できるようになった。本研究は 2025 年 6 月に成果をまとめ、公表する予定である。

最後に、今回の長期研修制度を通じて、研究に専念し能力を高める貴重な機会をいただきました。研修実施を支援してくださった成蹊学園ならびに成蹊大学に心より感謝いたします。

以上